

管内の農業は、全道平均に比べ経営規模が小さい一方で、水稻や馬鈴薯、豆類、野菜、酪農や肉牛、養豚など、バラエティーに富んだ農業が営まれています。

水稻は、道南で開発された「ふっくりんこ」を中心に「ななつぼし」や「ゆめぴりか」の特A品種、減農薬が可能な「きたくりん」などが栽培されています。

馬鈴しょは、南部では厚沢部町が発祥の地とされる「メイクイン」、北部では「男しゃく」が主に生産され、特に2019年に地理的表示（GI）を取得した「今金男しゃく」は、デンプン含有率が他産地の男しゃくの平均値より約1割ほど高く、厳しい選果基準により形状や外観が良いことから、市場では品質、食味ともに高い評価を受けています。

野菜は、アスパラガスやブロッコリー、ミニトマトなど多品目の生産となっており、特に上ノ国町は、道内有数のさやえんどうの産地となっています。

また、北部を中心に酪農・肉用牛経営が行われているほか、戸数は少ないものの養鶏や地域ブランドとなっている養豚も行われています。

このほか、厚沢部町では焼酎工場と連携したさつまいもの生産、奥尻町では島内で生産されたブドウによるワイン醸造などが進められており、上ノ国町では地元企業による大規模なトマト栽培が行われています。

振興局では、生産活動の基盤となる農業農村整備事業を計画的に推進し、ほ場の大区画化や排水改良など、生産性の向上と新たな高収益作物の導入・拡大などに加えて、スマート農業技術の積極的な導入による低コスト・省力化を推進するとともに、農業・農村を支える多様な人材の育成・確保に向け、地域が行う新規就農者の受入れへの支援など、檜山の農業・農村が持続的に発展するための取組を行っています。



「今金男しゃく」（GI登録）



ハウス立茎アスパラガス（厚沢部町）



さやえんどう（上ノ国町）

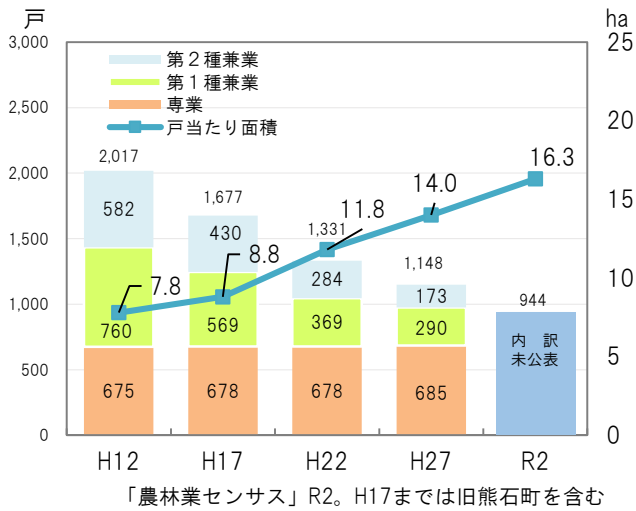


焼酎原料用
さつまいも
（厚沢部町）

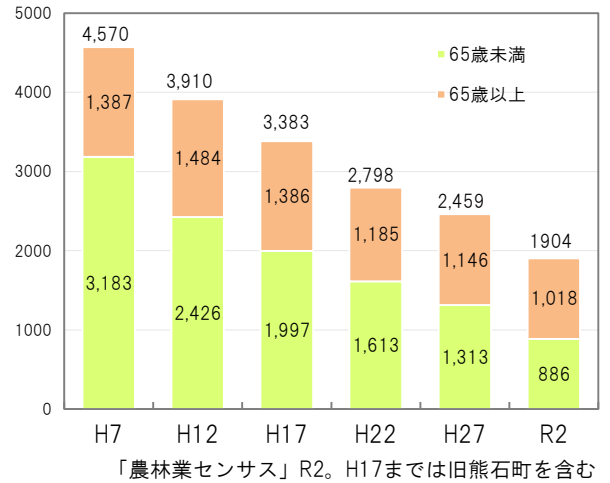


自動操舵
システムの導入
（厚沢部町）

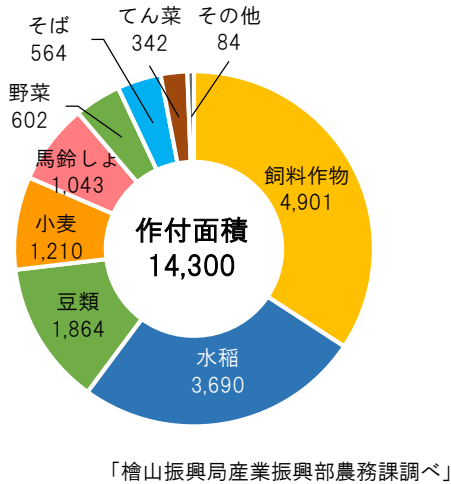
●農家戸数及び戸当たり経営面積の推移 (単位: 戸、ha)



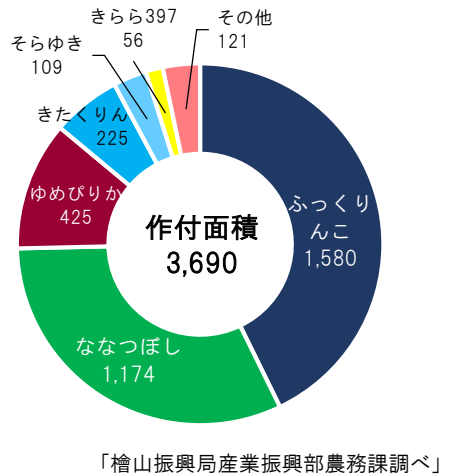
●年齢別農業就業人口 (単位: 人)



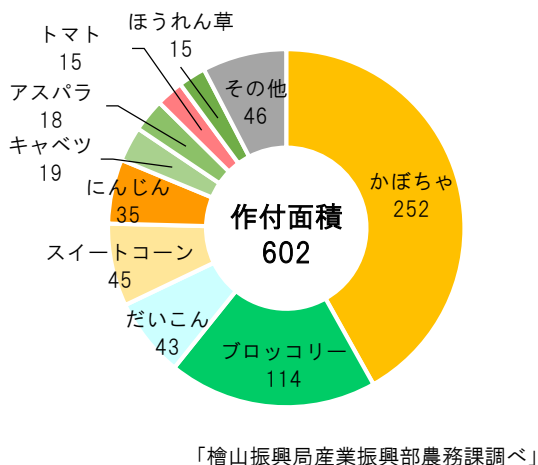
●主要農作物の作付面積 (令和3年産) (単位: ha)



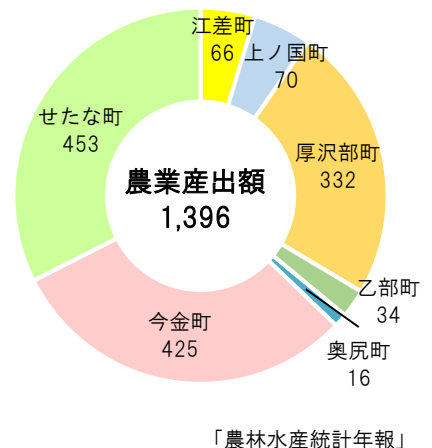
●主要水稻の作付面積 (令和3年産) (単位: ha)



●主要野菜の作付面積 (令和3年産) (単位: ha)



●農業産出額推計 (令和2年) (単位: 千万円)



管内の森林面積は215,795haで、土地総面積の82%を占めており、全道でも森林面積の割合の高い地域となっています。所管別に見ると、国有林61%、道有林11%、一般民有林28%となっています。

針葉樹では、渡島半島特有のスギやヒノキアスナロ（ヒバ）の生育が特徴となっています。広葉樹では、主にブナ、カエデ等が生育しています。

また、ゼロカーボン北海道実現に向けた二酸化炭素吸収源対策として、伐採跡地等への植林や間伐等の適切な森林施業を進めています。

主要な造林樹種はカラマツ、スギ、トドマツで、管内の造林面積の約7割を占めており、檜山ゆかりの木「ヒノキアスナロ」も継続的に造林されています。

間伐材は、スギやトドマツを中心に、製材、チップ等に加工されているほか、地域における有効利用策として、公共建築物の木造化を推進しています。

また、子どもをはじめとするすべての人が『木とふれあい、木に学び、木と生きる』木育活動の取組を推進し定着を図るため、檜山振興局1階ロビーでの木育コーナーの設置やイベントの実施、植樹祭・育樹祭の開催支援を通じて、森林や木材とふれあう機会の充実を図るとともに、森林観察会や木工教室を開催するなど、青少年に学習の機会を提供しています。



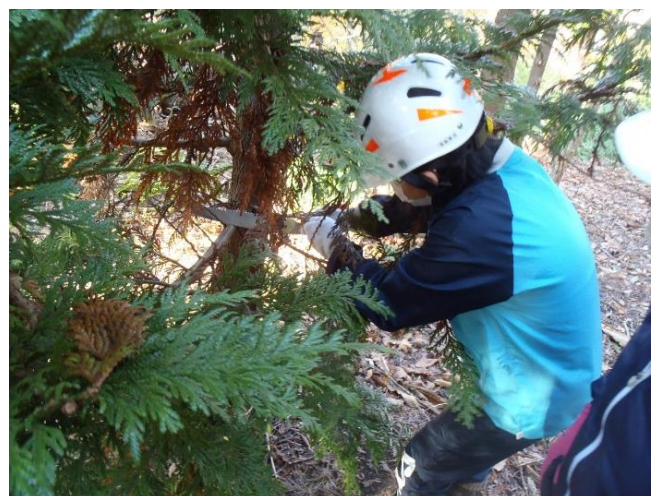
ヒノキアスナロ（江差町檜山古事の森）



地域材を活用した公共施設（厚沢部町認定こども園）

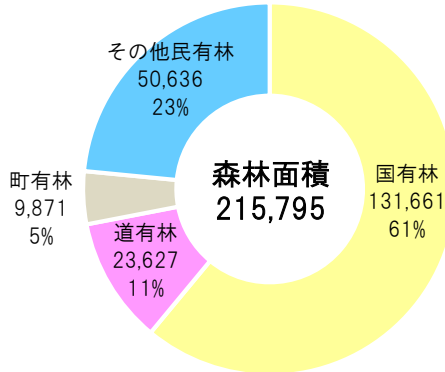


木工教室の様子



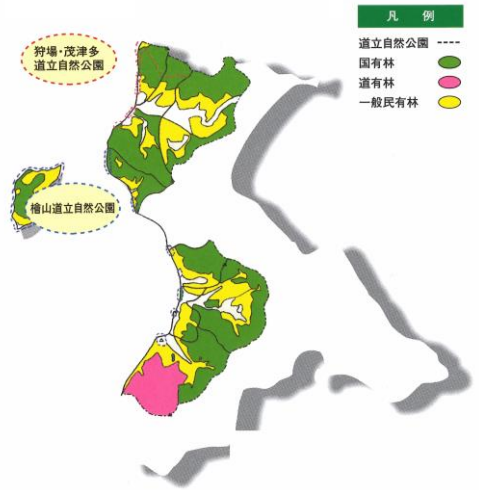
「育樹活動」の様子

●管内所管別森林面積（令和3年4月1日現在）（単位：ha）

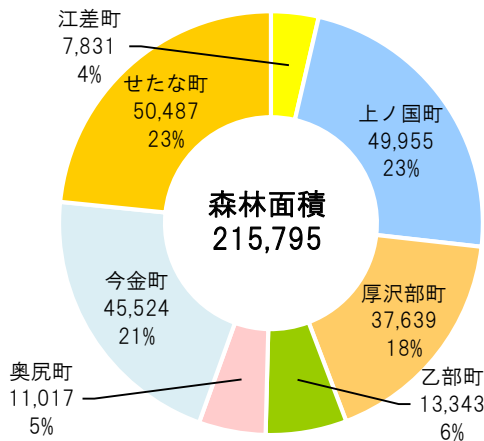


「令和2年度北海道林業統計」

●管内森林分布図

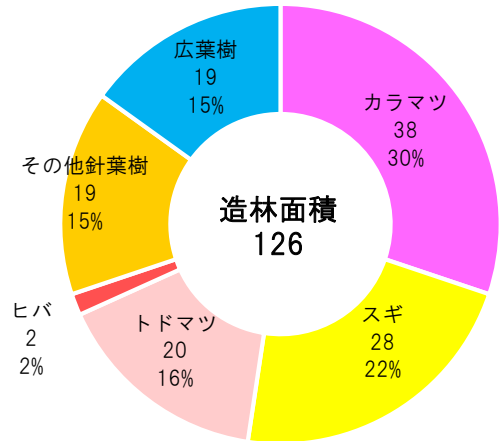


●町別森林面積（令和3年4月1日現在）（単位：ha）



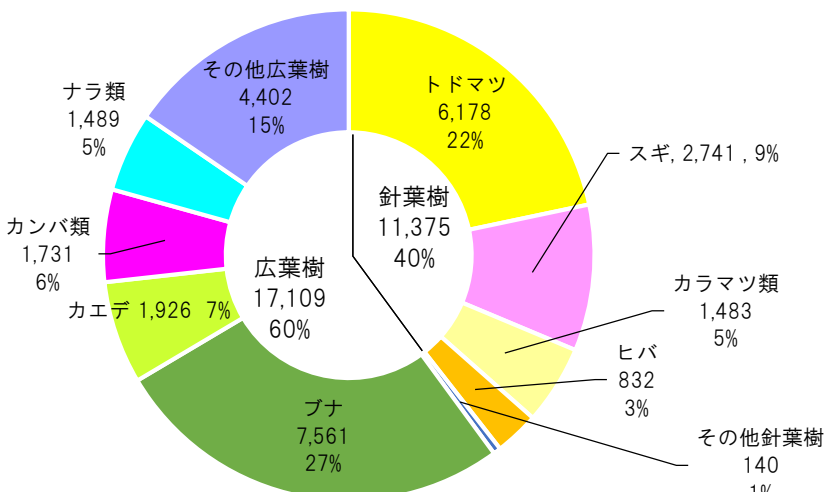
「令和2年度北海道林業統計」

●民有林樹種別造林面積（令和3年度）（単位：ha）



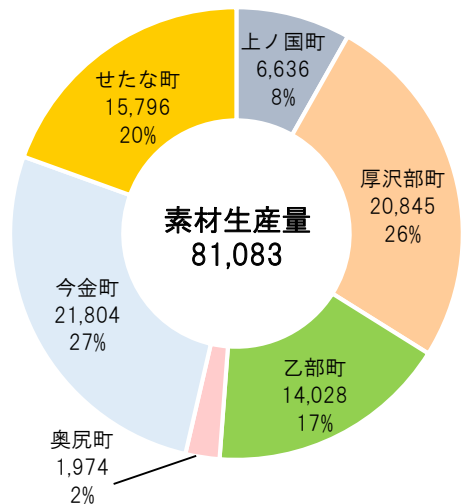
「令和3年度造林事業実績」

●樹種別森林蓄積（令和3年4月1日現在）（単位：千m³）



「令和2年度北海道林業統計」

●町別素材生産量（令和3年度）（単位：m³）



「檜山振興局産業振興部林務課調べ」

檜山管内では、スルメイカやスケトウダラ、ホッケ等の回遊性魚類を主体とする漁船漁業を中心に、ウニやナマコ等を対象とした採介藻漁業やサケ定置網漁業等が営まれており、令和4年のサケ定置網漁業は過去10か年で最高の漁獲量となりました。

近年、回遊性魚類の漁獲量が減少している中、漁業生産の回復・安定化を図るため、「つくり育てる漁業(栽培漁業)」の取組が進められており、ニシンの稚魚の100万尾放流をはじめ、ヒラメやナマコ等の種苗放流が行われています。

ニシンの大規模な産卵行動により海面が白濁する「群来(くき)」という現象は、檜山管内では100年以上発見されなかったのですが、平成29年、令和2年に江差町、令和4年に乙部町、令和5年には江差町、乙部町及び八雲町(熊石地区)の複数箇所を確認されました。

また、「日本海漁業振興基本方針」に基づき、ホタテガイ養殖と定置網漁業を組み合わせた経営体制の育成や、漁港等の静穏域を活用したニジマス(トラウトサーモン)の養殖をせたな町、八雲町(熊石)、奥尻町及び江差町で実施し、新たな生産体制づくりを推進しています。

加えて、鮮度保持の処理が施された神経締め製品や未利用資源である海藻アカモクの販路拡大などの水産物の付加価値向上を図る取組が進められています。

特に、ナマコは漁業者が水揚げから加工・販売、ブランド化に取り組んでおり、「檜山海参(ヒヤマハイシェン)」として、地理的表示(GI)保護制度に登録されています。

一方、漁業就業者が年々減少し、高齢化が進行する中、新たな担い手を確保するため、体験漁業等の実施により、漁業が就業の選択肢の一つとなるきっかけづくりに取り組んでいるほか、将来の独立就業希望者に対して、複数漁業の技術を習得するための研修が奥尻地区漁業担い手対策協議会や漁業研修所で実施されています。

魚食普及においては、檜山管内の小中学校で、漁業士会及び漁協青年部により、「育てる漁業体験塾」などを開催し、漁業に関する授業のほか、地元水産物を用いた調理を通して、檜山の漁業に関する理解促進を図っています。



サケ定置網漁業 水揚げ状況



ニジマス(トラウトサーモン) 養殖施設からの水揚げ状況

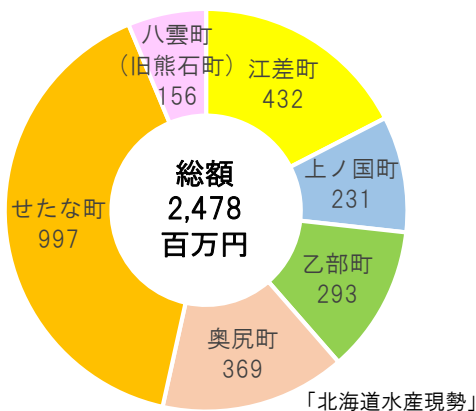


檜山海参やアカモクの販促状況

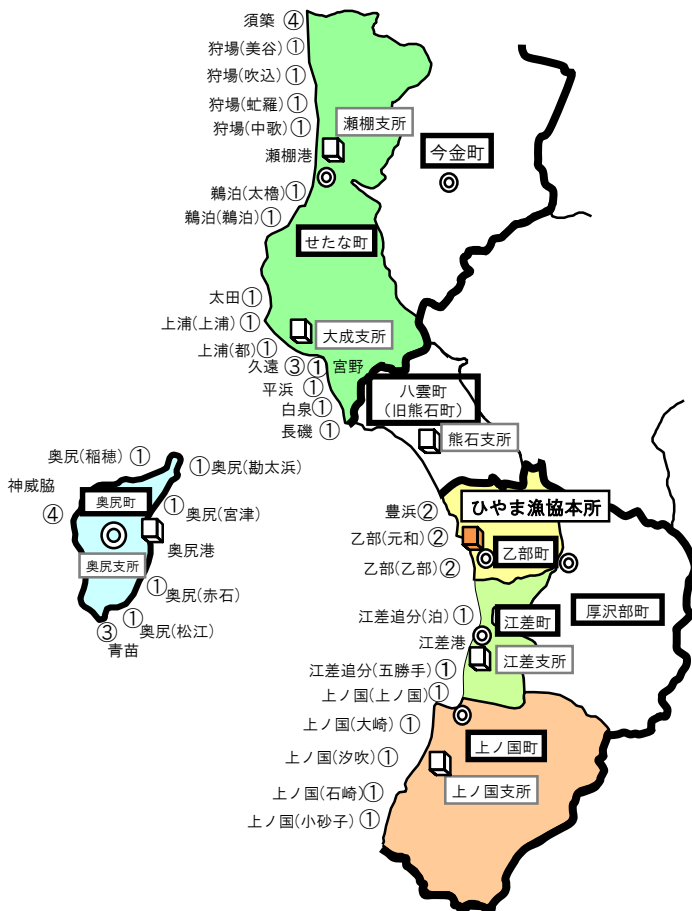


漁業士会による出前授業(調理実習)

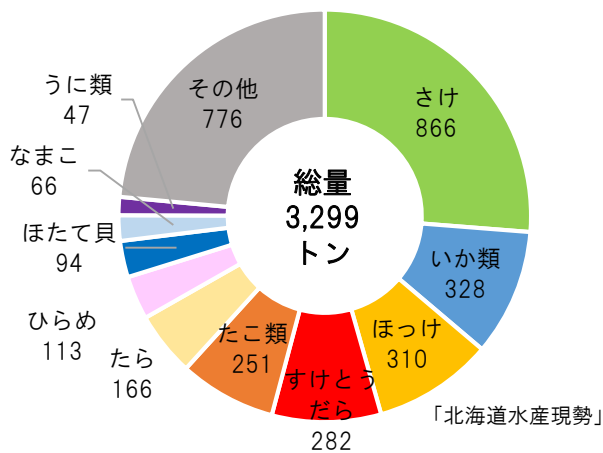
●町別漁業生産額（令和3年）（単位：百万円）



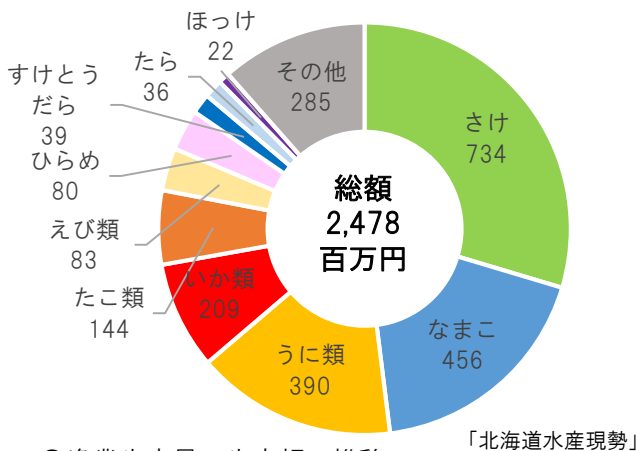
●檜山管内漁港・漁協位置図（令和4年3月）



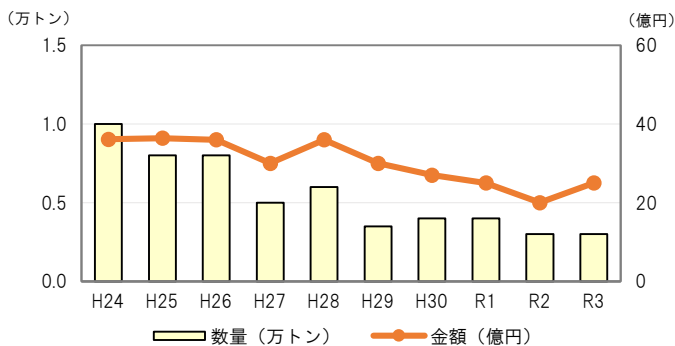
●魚種別漁業生産量（令和3年）（単位：トン）



●魚種別漁業生産額（令和3年）（単位：百万円）



●漁業生産量・生産額の推移



📖	漁協本所所在地	1
📖	漁協支所所在地	6
①	第1種漁港	11(14)
②	第2種漁港	2(1)
③	第3種漁港	2
④	第4種漁港	2
	地方港湾	3

※ () は分区数

●檜山管内海岸線延長（令和4年3月）

海岸線延長	(単位：m)
瀬棚区	28,307
せたな町	
北檜山区	19,467
大成区	31,605
乙部町	14,483
江差町	20,689
上ノ国町	29,204
奥尻町	67,658
管内合計	211,413

(資料：渡島総合振興局函館建設管理部江差出張所調べ)

●商工業

管内の商業は、経営規模では従業員1～2人の小規模な事業所が全体の約半分を占め、商品販売額における小売業の割合が8割以上を占めるといった特徴が見られます。

また、少子高齢化の進行や函館など管外大型店への購買力の流出、経営者の高齢化・後継者不足などの問題を抱えており、管内卸売業・小売業の事業所数は減少傾向にあります。

こうした中、地元商店街や「まちづくり会社」による、まちなかイベント開催など、地域経済活性化の取組が行われています。

管内の製造業について、業種別の出荷割合では、食料品製造業と木材・木製品製造業、窯業・土石製品製造業の3業種で全体の約9割を占めており、管内の恵まれた農林水産物を活用した新商品の開発や商品の磨き上げ、管外の物産展・商談会への出展による販路拡大など、食品製造業への支援に取り組んでいます。

●観光

檜山では、道内最古の祭りといわれる「姥神大神宮渡御祭」(江差町)や、日本民謡の王様と呼ばれる「江差追分」、東洋のグランドキャニオンと名高い「館の岬」(乙部町)、「親子熊岩」(せたな町)等の日本海にそびえる奇岩など、いにしえから続く歴史・文化や、日本海の荒波を感じることができます。

また、農産物直売所やお土産が人気の道の駅「あさぶ」や「上ノ国 もんじゅ」、道南一の雪質が自慢の「ピリカスキー場」(今金町)、管内7町全てにある温泉もおすすめです。

離島の奥尻町も、ウニやアワビなどの海産物、マリナクティビティ、日本初の離島ワイナリーなど、豊富な観光資源を有しています。

振興局では、管内各町や観光協会、宿泊・交通事業者等と連携した「ひやまの観光をみんなで考える会」による滞在型観光の推進や、動画やSNSによる地域の魅力発信等、ウィズコロナを見据えた観光振興に取り組んでいます。



江差いにしえ春市

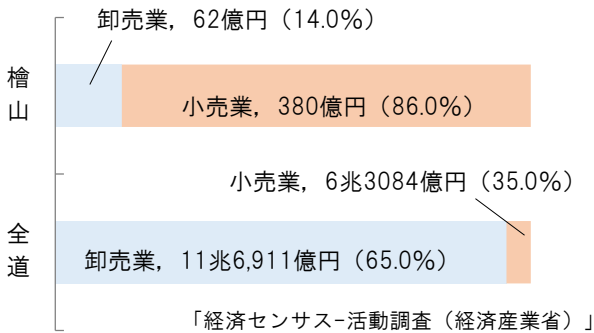


マリナクティビティ (奥尻町)

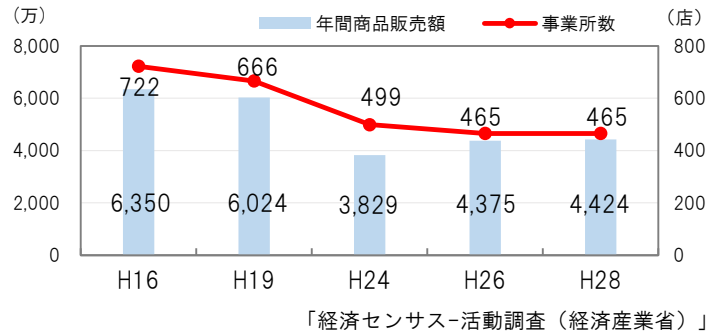
檜山管内のまちづくり会社

社名	主な業務内容
一般社団法人 江差観光みらい機構 (江差町)	・観光客受入促進 ・アンテナショップ「ぶらっと江差」の運営
上ノ国開発株式会社 (上ノ国町)	・商品やサービスの企画・販路開拓・生産連携 ・「上ノ国ワイナリー」の運営
素敵な過疎づくり 株式会社 (厚沢部町)	・「ちょっと暮らし事業」などの移住定住促進事業 ・地域特産品等の販売
おとべ創生株式会社 (乙部町)	・地域資源を活用した商品開発 ・イベントの企画・出展

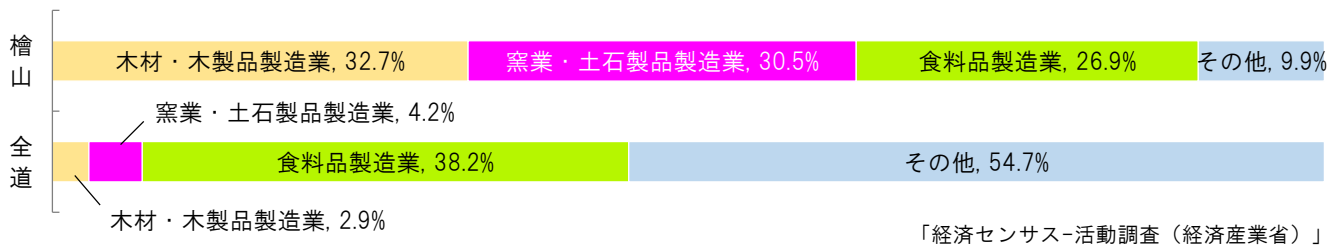
●商品販売額（平成28年）



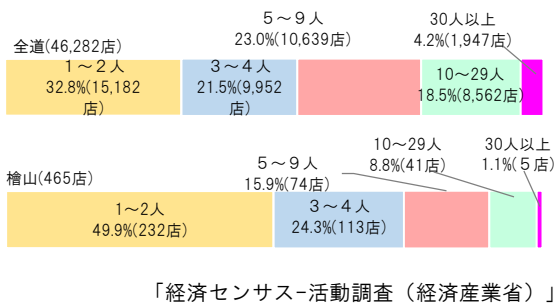
●管内卸売業・小売業 事業所数・年間商品販売額の推移



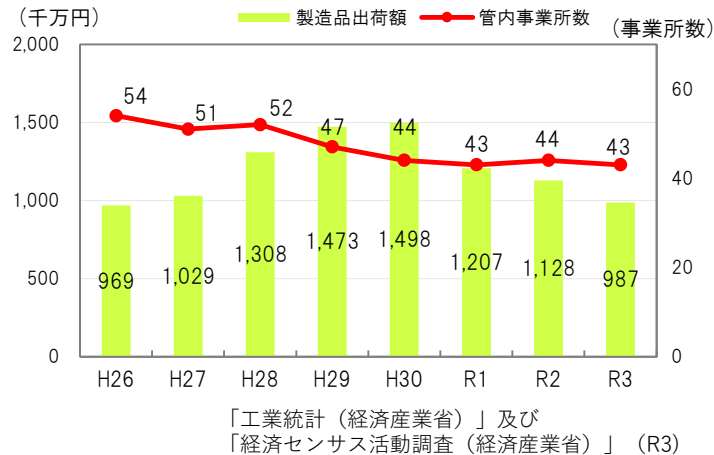
●管内業種別出荷割合（令和3年）



●卸売業・小売業の従業者規模別事業所数割合（平成28年）



●管内製造業 事業所数・製造品出荷額の推移



●町別観光入込客数（令和3年度）

町名	入込数 (千人)
江差町	71.4
上ノ国町	198.9
厚沢部町	374.6
乙部町	57.7
奥尻町	21.0
今金町	130.3
せたな町	170.2
合計	1,024.1

「北海道観光入込客数調査（北海道）」

●観光入込客数の推移

